

平成21年度 学校関係者評価

鈴鹿市立鈴西小学校			
評価項目	本年度の活動と指標	学校関係者評価	
学力保障	授業改善 授業研究	①年間必ず1回は授業研究を行い、聞く・話す・読む・書くをバランスよく取り入れ、わかる楽しい授業で子どもの意欲を高める。 ②教えたことが身に付いているかをC R Tなどで検証し分析する。	○習熟度別学習は子どもたちの選択で取り組めれば いいが、小学校では難しい面もある。 ○少人数指導は他市に比べて進んでいるので、継続して取り組んでほしい。 ○少人数指導であっても、学習ボランティアを活用してきめ細やかな支援をしていく必要がある。
	補充学習	③朝の学習で10分間取り組む。 ④夏休み中に補充学習を行う。	○学習ボランティアはきめ細やかな指導を補助し、 底上げを図る学力保障の取組である。
	少人数教育	⑤内容によって、2クラスにしたりティームティーチングにしたりして学習効果を高める。場合によっては、習熟度別で進めることもある。子どもからアンケートを取り成果の状況を把握する。	○個人の向上は集団の力を借りて達成されていくことがある。次に何かやりたいと意欲をもたせるには異年齢の集団や意図的に多くの人と関わる取組を継続して行ってほしい。 ○家庭学習の定着では、宿題以外の自学自習の取組も進めてはどうか。自学ノートを作成して評価をしてやれば達成感をもたせることができる。
	学習ボランティアの活用	⑥技術的な支援や人的援助がいるものから各クラス複数入ってもらう。 ⑦ゲストティーチャーを学期2回は招聘する。学習と結びついたものを選ぶ。	○読書活動では、本を読む興味づけや親子で始める読書などをやってみてはどうか。 ○自分の読んだ本を紹介する場を設けたり、子どもたちの意見を集めて、目標づくりをしてみてもどうか。
	家庭学習の習慣化	⑧学年に応じた家庭学習に取り組み、実施率95%以上を達成します。 (1年:10分, 2年:20分, 3年:30分 4年:40分, 5年:50分, 6年:60分)	○児童アンケートの結果をみると、子どもたちは学校に十分満足している状況がある。先生方のゆとりが子どもたちにいい影響を与えている。
	読書活動	⑨読書を盛んにし一人年間30冊以上を目指す。(全校で7000冊)	
生活指導	あいさつ運動	①95%以上の子が大きな声であいさつできる。	○学校でのあいさつ運動では、声が小さかったり、元気がなかったりするが、地域の中や地区では、子どもの方からよくあいさつをしてくれる。
	避難訓練	②避難訓練を年2回行う。1回目は出来るだけ早く行い、教室から担任が誘導する。2回目は引き渡し訓練を同時に行う。	○テレビやゲームについては、その内容をまわりの大人がまず理解することから始め、子どもが納得した上で時間を決めていく方法もある。
	安全安心	③児童全員に笛・ブザーを首から下げさせる。時々練習させる。 ④通学路の点検を年1回はおこなう。安全マップを作成し、共通理解を図る。地区委員とも連携する。 ⑤防犯教室を行い、教室に侵入した時通学路で連れ去られる時などの指導をする。	○森のまつりなどの行事では、自分たちの力で意欲的に進められていた。行事を通して地域とのつながりを深めることで、あいさつ運動や防犯意識も高まっていくので是非継続して取り組んで行ってほしい。
	生活習慣	⑥毎日のテレビ・ゲームの時間を合わせて2時間以下にする。	